

第10回「日本語大賞」

テーマ「忘れられない言葉」

中学生の部 優秀賞 受賞作品

「命は地球よりも重い」

宮城県

古川学園中学校

1年 浅野 のぞみ

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

あの日、海が怒った三月十一日。まだ幼稚園児だった私は、母にだかれて避難した家の屋上で、家や車を飲み込んでいく津波をただただ見ていた。

あの東日本大震災から早七年。中学一年生になった私は今でも忘れられない言葉がある。それは、「命は地球よりも重い。」である。この言葉は私が小学生の時の校長先生が言っていたことだ。

私の出身校宮城県石巻市立湊小学校は、校舎が震災で甚大な被害を受けた。そのため、児童は住吉中学校に間借りし、スクールバスで通っていた。中学校では中学生と遊んだり、交流会をしたりなど楽しいことがいっぱいあった。でも、湊小学校の本当の校舎ではないため、校舎には遊具もなく、ボール遊びもできなかった。何より、湊小学校の歴史や伝統を学べなかった。

私が小学校一年生の時、震災から二年目の三月十一日。湊小学校の全校集会で「祈りとかいの集い」が行われた。震災で亡くなった方々に黙祷をして、校長先生の話が始まった。

一年生から六年生までが校長先生を囲み、静かに話を聞いた。校長先生は「使命」について話してくれた。難しい言葉もあったけど、一言一言が心にひびいた。

「使命の使はつかう、使命の命はいのち。使命とは大切な命を使うことです。命の役割のことです。皆さんは大切な命をどのように使いますか。」と、校長先生は言って、私にマイクをむけた。

私は校長先生のいる円の中心に行った。住吉中学校の体育館はとても大きくて広くてドキドキした。全校のみんなも静かに聞いていた。

「私は、大切な命を人の役に立つように使いたいです。」

と答えた。すると、校長先生は私をだき上げた。

「僕はのぞみさんを持ち上げられるけど、命とは地球よりも重いのです。この重み、この命に勝るものはないのです。」

と、校長先生は言った。だっこされた時は緊張したけど、その言葉を聞いた時、心がホカホカに温かくなった。

あの震災で一万五千人をこえる方々が亡くなった。さらに毎年のように全国各地で災害により多くの尊い命が失われている。また、世界に目を向ければ、テロや紛争で罪のない一般市民の命がうばわれている。それから、貧困による栄養失調や病気で幼い子供たちが死んでいる。こんなに簡単に人の命が失われていいのだろうか。

私は将来、歴史にたずさわる仕事をしたい。今の私には尊い命のためにできることは少ないけれど、将来は過去にあった過ちを未来に伝えていき、災害に備えた生活、平和でみんなが安心してくらせる生活、食糧や医療が世界にいきわたり、全ての人々が健康で基本的な生活が営まれるような世界を作るため何かの力になりたい。人の命を尊ぶ世界を作るため。